

コレジオプロジェクト通信 1号

平成22年11月9日(火)

松本さん提案のコレジオPに関するトヨタ財団への応募資料作成にあたり、共助研メンバーも現地を経験し、応募資料に関する顔を突き合わせた意見交換をするために、「男達のステージづくり in 千々石」と題した交流会に参加してきました。

1. 千々石周辺のまち歩き

10月16日(土)、共助研の4名(波木、塚田修、塚田由美、山本)はそれぞれ福岡、大分から、同じく共助研会員の松本由利氏の待つ竹添ハウス(雲仙市千々石町)へ集合しました。到着したのは11時でしたが、九州運輸局企画観光部長の加藤氏が合流し、早速、松本氏の案内で千々石町内のまち歩きを開始。お腹の虫も鳴きはじめ、松本氏おすすめの「久保田食堂」でちゃんぽんをいただきました。ちょうど週末が稲刈りの時期と重なったこともあり、出前の注文でてんてこ舞いの状態。忙しい時間帯に申し訳ありませんでしたが、とても美味しいちゃんぽんをいただいた後、無理矢理に記念撮影までしていただきました。後継ぎがないということで「あと1年もしたら店を閉めるかもしれない」とおっしゃっていました。地域の名物が消えていくことは、非常に残念なことです。

●千々石まち歩き参加者

松本(Team Gear・共助研)

加藤(九州運輸局)

波木・塚田夫妻・山本(共助研)

以上6名



久保田ちゃんぽん



店先で記念撮影

しっかりと腹ごしらえした後、まずは町内を徒歩で散策しましたが、湧水が豊富であるということに大変驚きました。水郷と呼ばれているような有名な地域に比べても全く引けを取らないくらいに、あちこちから水が湧き、街中に張り巡らされた水路には豊富な水量の水が流れ、心地よいせせらぎの音があちらこちらから耳に入ってきました。この他にも趣のある川や石橋、神社、お寺をはじめ、地域の商店街、島原のお殿様や坂本龍馬が通ったとされる路(みち)などフルメニューで案内していただきました。



豊富な水量が流れる水路



湧水箇所



デザインされたマンホール

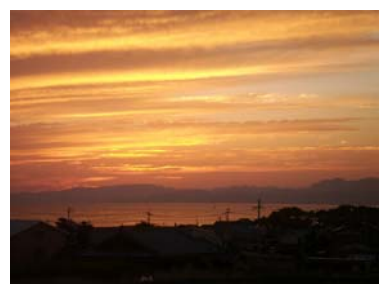


じゃがいもの段々畑

そして、次は車に乗り換え南串山の段々畑、口之津を見学。天草との距離の近さを感じながら、加津佐を通り、最後は小浜温泉で汗を流しました。竹添ハウスに着いた頃には、橘湾に沈む綺麗な夕陽を見ることができました。



小浜の海上露天風呂



竹添ハウス付近からの夕景

2. 「TEAM GEAR」の皆さんとの夕食、意見交換

「TEAM GEAR」の田浦氏や菊田氏が加わり、そしてトヨタ財団の説明会に参加されていたご主人の松本正彦氏も戻ってこれ、夕食をとりながら親睦を深めました。この日の夕食は豆乳鍋とおでんでした。豆乳鍋は初挑戦だったらしいのですが、地元の豆腐屋さんの豆乳で、序盤は湯葉が何度もできあがりしました。また、松本由利氏の発案でおでんの残り出汁でカレーうどんを作りましたが、これがなかなかの味で皆さんに好評でした。田浦氏は地元の酒造のご主人で雲仙歴史観光ガイドでもあ



夕食の様子

ります。また、「温泉（うんぜん）レモネード」や「かすてらサイダー」を開発されるなど、地元のブランドづくりをはじめ、地域活動等にも精力的にご活躍されています。菊田氏は雲仙市役所で観光関連のお仕事をされていたらしく、松本氏の師匠とのことでした。現在はイベント企画等の会社を設立し、田浦氏同様に地域活動等にも精力的にご活躍されています。TEAM GEAR を取り巻く人々は松本夫妻をはじめ、このような個性的で魅力的なメンバーが揃っており、とても心強く感じられました。

3. 事業応募に向けた打合せ

翌日、加藤氏はハウステンボスでの公務のため早朝に発っていかれました。本日も朝から川沿いの清々しい散歩道を軽く歩いた後、いよいよ本題の補助事業の打合せです。この日は「TEAM GEAR」のメンバーで、島原で不動産会社を経営しファイナンシャルプランナーでもある大町氏が加わりました。そして、松本正彦氏からトヨタ財団の説明会の内容が報告されました。キーワードは「トヨタ財団と共同で実施していけるもの」。トヨタ財団も地域社会活動を模索しているようで、パートナーとして継続していける組織や仕組みが求められているようです。当日の説明や企画書を踏まえ、あげられた主な意見は以下の通りです。



川沿いの散策道

- ・「対象とする千々石のことをもっとアピールしてみては」
- ・「冒頭のプロジェクトの概要は、自分の言葉で語り調にしてみては」
- ・「竹添ハウスのような、自分の家感覚になれる拠点として、地域づくりを展開する仕組みを考えていることをわかりやすく記載してみては」

松本由利氏が「まちは、かやくごはん。いろんなもんがあって、いつもぬくいから、まちになりまんねん。」となにわ商人鑑の一節を紹介されました。まちには「かやくごはん」のようにいろいろな人や資源があって、それに人々の温かさも加わって、魅力的なまちになるという、当たり前のようなことですが、失われてきていることで、今回のプロジェクトでも目指しているものだと思います。共助研としても、事業の採択の有無に関わらず、できる限り協力していくことをお伝えしました。



スローフード弁当

最後になりましたが、お昼に戴いた地元の守山女性部加工組合のスローフード弁当は、こんにゃくをベースとしたマクロビオティックというのでしょうか、素晴らしい景色とヘルシーなお弁当で心も体も綺麗になった気がしました。また、皆を和ませてくれた猫の竹蔵もありがとう。大半がグルメリポートのようになってしまいすみませんでした。



竹蔵

(文責：山本)